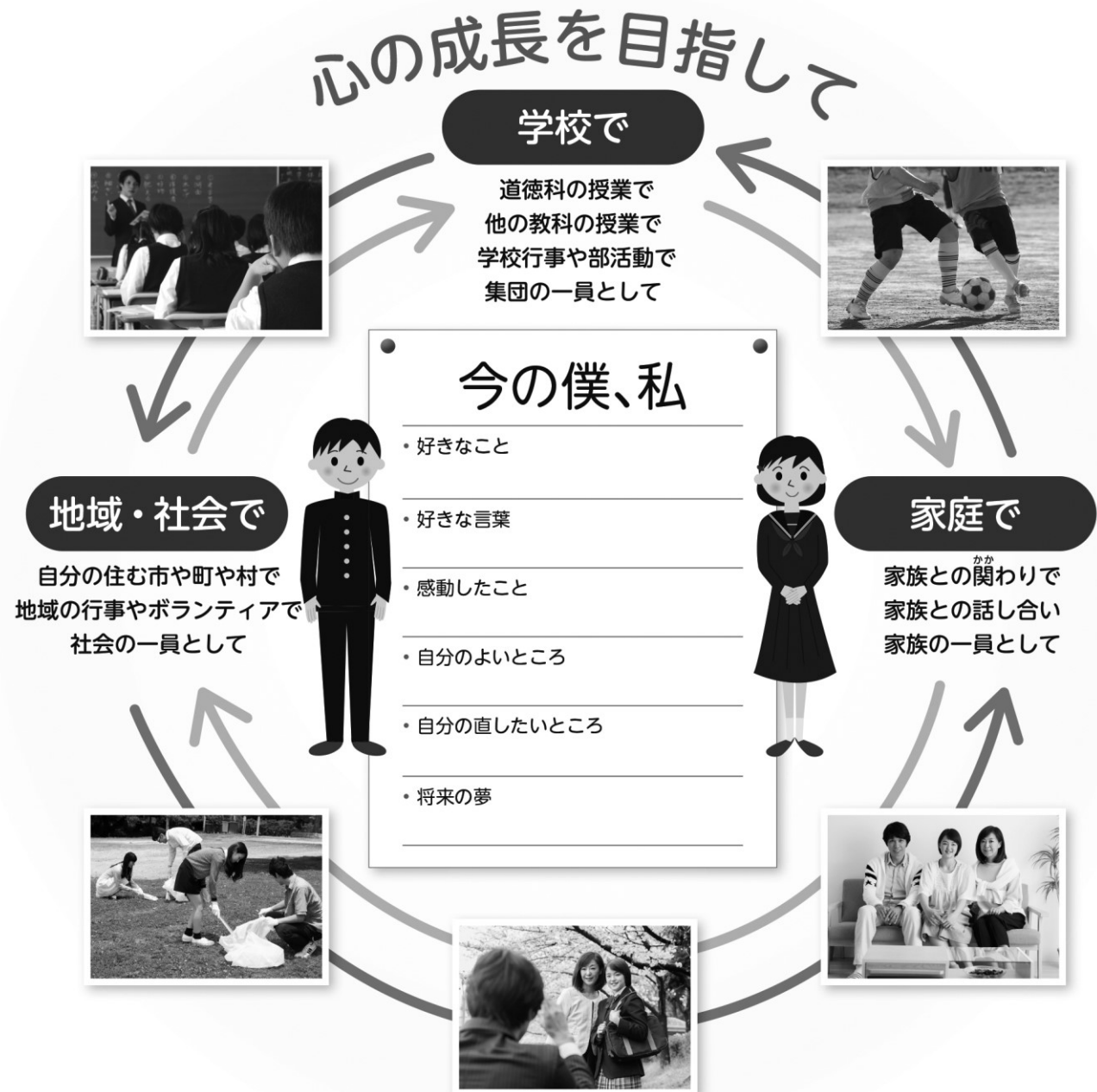


編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※ 受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-19	中学校	道徳	道徳	1年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
233 日科	709	道徳 中学校1 生き方から学ぶ		

1. 編修の基本方針



◆ 本教科書が育てたいこと

- ① 自分の身の回りに興味・関心を持ち、問題意識を持つことができる
- ② 自分の考えを持ち、積極的に発言することができる
- ③ 他の人の意見をしっかりと受け止め、尊重することができる

中学生は、生徒自身が生きる社会や人間関係が飛躍的に広く複雑になっていきます。そしてそれに伴って、自分は、家族の一員であり、学校の一員であり、地域・社会の一員であることを、強く実感していく時期です。

広い世界は、新たな喜びや楽しみを運んで来る一方、今まで信じてきた「道徳的諸価値」が、激しくぶつかり合うことも経験するようになります。「友情」と「社会正義」、「自由」と「公共の精神」など、これまでどちらも正しいと捉えてきた価値が対立する現実です。そこで子供たちは、何を信じたらいいか分からず、どちらかを選ぶこともできず、情緒的に不安的になる場合があります。

このような状況において、学校の「道徳」が担う役割とは何でしょうか。

私達は、徹底的に「道徳的書価値」に向き合わせることでと考えました。表面的な見方に留まらず、より深い理解に到達することができる時間にするという事です。



「道徳的諸価値」と真剣に向き合うことが、価値観の多様性をしっかりと受け入れる寛容さを育みます。その目指すところは、生徒一人ひとりが、国境や文化を超えた「普遍的な心」を持つことです。それはすなわち、相手の立場を尊重し、心から思いやる心です。

この心によって、地域社会や国、そして世界に主体的に関わる意識を生み、これからの未来を見据えて行動することに繋がっていくと考えています。

本教科書は、教育基本法に示された教育の目標を達成し、上記の「普遍的な心」を育むために答えが1つではない道徳的課題を、一人ひとりの生徒が、自分自身の問題と捉え向き合い、「考えること」ができ、そして他の人と「議論すること」ができる教材を揃え、さらに生徒が学びやすく、先生が教えやすい紙面を目指して編集を行いました。

2. 対照表

図書の構成・内容	該当箇所	特に意を用いた点や特色
◆目次	表 2～p.1	本書は、学習指導要領の内容項目順に教材を配置しています。「A 自分自身と向き合う」「B 他の人とのかかわり」「C 集団や社会とのかかわり」「D 自然や崇高なものとのかかわり」の4章立ては、それぞれ学習指導要領のABCDに対応しています。これは、教科書の順番に縛られることなく、各地域、各学校の特色や方針によって、自由に各教材を活かしてほしいという意図があります。(第1号)

◆巻頭詩「今日からはじまる」	pp. 2～3	これから3年間「道徳科」で学び、目指すことの核を、1編の詩に託して、生徒に伝えています。(第1号)
◆道徳科って何を学ぶの ◆心の成長を目指して	pp. 4～7	「道徳科って何を学ぶの」は、学習指導要領の内容と「考え、議論する道徳」を確認する内容になっています。そして「心の成長を目指して」では、「道徳科」を、学校教育、地域・社会、家庭のなかで位置づけ、生徒により広い視野から「道徳科」を捉えるように促しています。(第1号)
A 自分自身と向き合う	pp. 7～36	学習指導要領「A主として自分自身に関すること」の5項目に該当する教材を掲載しました。生徒の日常生活に関する2編、車いすテニスの国枝慎吾さんと金星探査機「あかつき」の中村正人さん、先人として吉田松陰とバランスよく配置しました。また身体への意識を向ける(食育)目的で、辰巳芳子さんの文章も掲載しています。(第2号)
B 他の人とのかかわり	pp. 37～72	学習指導要領「B主として人との関わりに関すること」の5項目に該当する教材を掲載しました。特にいじめの問題を重視したいことから、「友情、信頼」の教材を、他より多く3編載せています。(第3号)。
C 集団や社会とのかかわり	pp. 73～160	学習指導要領「C主として集団や社会との関わりに関すること」の7項目に該当する教材を掲載しました。いじめの問題を正面から取り上げている「プロレスごっこ」という教材を採用しました。(第3号) 羽田空港の新津春子さんを取り上げた「仕事と心」は、働くことの意義を考え、話し合える内容になっています。(第2号) また、循環型社会としての江戸時代や、台湾のダム建設に尽力した八田與一を取り上げることで、我が国の歴史と伝統と文化への愛情、ならびに他国へ尊重が育まれるようにしています。(第4号)(第5号)
D 自然や崇高なものとのかかわり	pp. 161～189	学習指導要領「D主として生命や自然、崇高なものとお関わりに関すること」の4項目に該当する教材を掲載しました。「過去からのメッセージ」という本教材のほかに、コラムとして「いのちのつながり」を設け、特に「連続性」という観点から、生命の尊さについて考えられるようになっていきます。(第4号) 「ニッポニア・ニッポン」では、環境の保全に寄与する態度とともに、我が国への愛情が育まれる内容になっています。(第4号)(第5号)
◆振り返りましょう	p. 190	「道徳科」で、1年間自分が育んできたものを、あらためて客観的に確認し、次年度に向けての目標を立てることが出来るワークシートを用意しました。(第1号)

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条との対応

- ◆C-12「町内会デビュー」では、地域社会における「自分」の関係を認識して「自分の立ち位置」を知ることにより、社会において自立的に生きる基礎を培い、社会の形成者として必要とされる基本的な資質養う意欲を持ってもらえるようになっています(第2号)。

学校教育法第21条との対応

- ◆C-16「雄司の自慢」では、「発酵食給食」を取り上げ、またコラムでは、地元の海に対する思いを綴った中学生の作文を掲載することで、郷土を愛する態度を養うようにしました。(第2号)。
- ◆C-14「形見」では、家族と家庭の役割について基礎的な理解を養うために、私たちにとって最も身近な社会集団である家族について、まずその連続性の観点から理解し、家族に対する愛情を深められるようにしました。(第4号)。

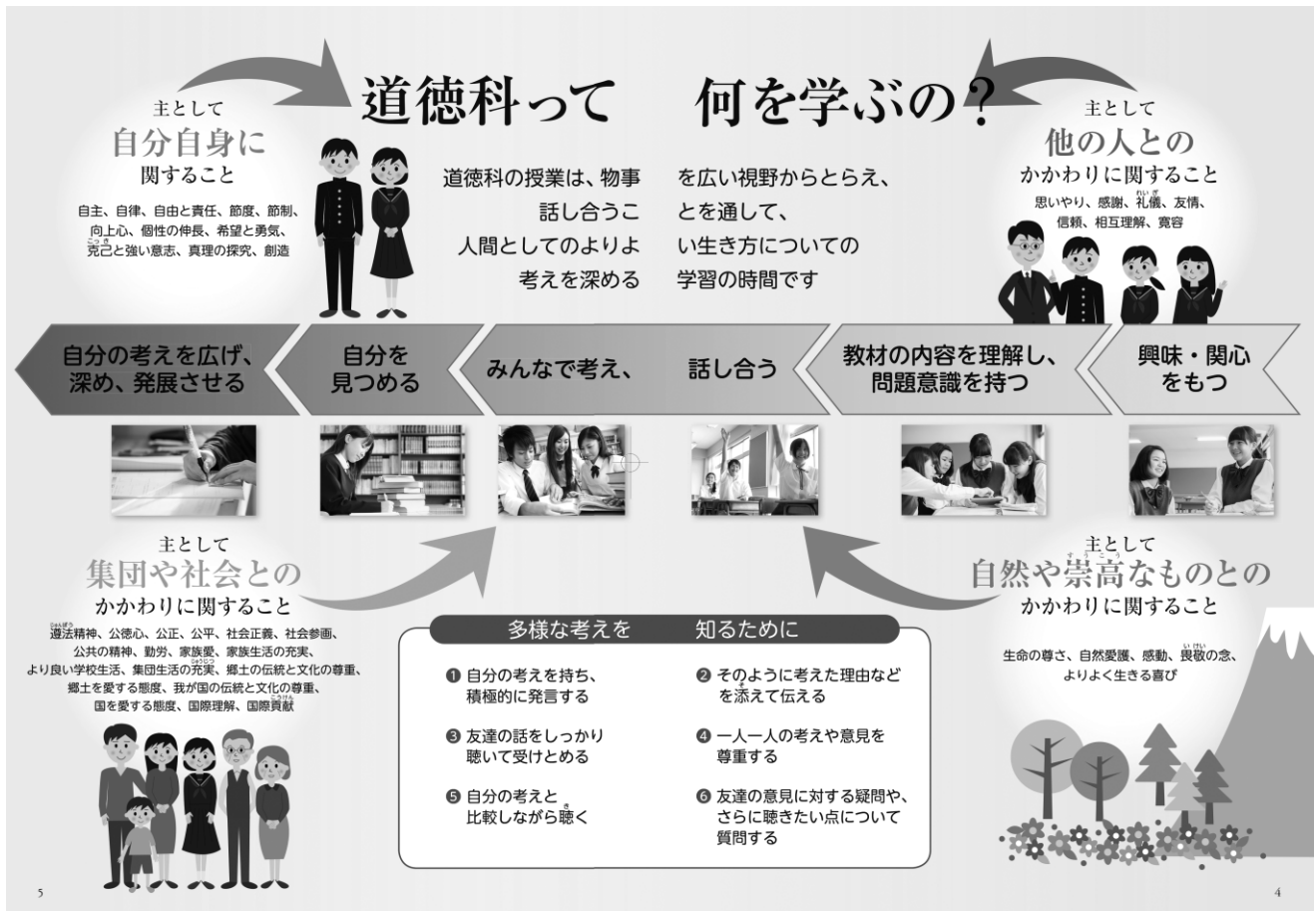
編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※ 受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-19	中学校	道 徳	道 徳	1 年
※ 発行者の番号・略称	※ 教科書の記号・番号	※ 教 科 書 名		
233 日科	709	道 徳 中 学 校 1 生 き 方 から 学 ぶ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本書は教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の基本方針で編集しました。



出会い、
ふれあい、
みがき合う
道徳科教科書

(1) 道徳的諸価値の理解を基に生み出される価値観の多様性

(2) 道徳性育成に向かう「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現

(3) 道徳教育の系統性と体系化（カリキュラム・マネジメント）を支える教材

(1) 道徳的諸価値の理解を基に生み出される価値観の多様性

人間尊重の精神を基盤とし、様々な事象を道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、人間としての生き方についての見方・考え方を広げ、深めます。

①生徒が、身近な事例から道徳的諸価値について考える

本書は、生徒一人ひとりが、国境や文化を超えた普遍的な心を持つことを目指しています。それはすなわち、相手の立場を尊重しながら、心から思いやる心と言えます。

その心を持つためには、「道徳的諸価値」と向き合い理解することが重要です。「友情」と「社会正義」、「自由」と「公共の精神」など、場合によって私たちは複数の道徳的価値からどの価値を優先するのかを決めなければなりません。そうした時に必要なのが、それぞれの価値のしっかりとした理解です。

本書は、中学1年生の発達の段階を考慮して、生徒の日常生活における身近な話題の教材を多く盛り込みました。(A-1「銀色のシャープペンシル」、A-3「パーソナリティ」、B-6「二枚のチケット」、B-8「いつもいっしょに」「リョウとマキ～First Love～」など)これらの教材のなかでは、登場人物が道徳的問題について心の葛藤や揺れに直面します。登場人物の悩みや葛藤を共有し、その道徳的問題や判断の結果を自分自身のことと捉え、考え、話し合うことで、道徳的諸価値への理解を深めることができます。

②多面的・多角的にとらえる教材

本書で特に目指していることは、価値観の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育むことです。そのためには、物事の多面的・多角的な見方・考え方を身に付けられるようにすることが大切です。①で取り上げた教材は、身近な事例において、家族や友達、学校や社会といった様々な視点から考えを深めることができるように工夫しています。また、生徒の主体的活動を中心に据えた次のような教材を採用しています。

◆B-9「二つの足跡」

3種類の恐竜の足跡の図のみで構成されている教材です。足跡の乱れから、何が起きたかを考え、議論するもので、同じものを見ていても、違う意見が出ること、また、その理由や対処法などを話し合うことができるように工夫しています。

◆C-14「ペーパーバード」

4枚の絵のみで構成されています。台詞は一切なく、絵を見ながら自分の頭のなかでストーリーを組み立て、その話を前提として、「家族愛」について深く考え、議論することができる教材です。

③先人から、自己の生き方を見つめ直す教材

身近な生活体験や事象だけではなく、先人の気高い生き方から、生きる勇気や知恵などを感じることができる教材を掲載しています。

A-4「志～幼少の記憶より」では吉田松陰、A-16「銅像が教えてくれたこと」では陸奥宗光、A-18「大地―八田與一の夢」では八田與一を取り上げ、真実や真理を求め続ける姿勢や、その背景にあった人間の弱さや醜さを吐露する姿などを知ることによって、生きることの魅力や意味の深さについて考えられるようになっていきます。加えて、スポーツ分野では、車いすテニスの国枝慎吾さん、

科学分野では、金星探査機「あかつき」の開発者である中村正人さんなどを取り上げています。

(2) 道徳性育成に向かう「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現

「考え、議論する道徳」の授業過程が構築され、道徳性を支える資質・能力を育成します。

①「考え、議論する」道徳授業ができる教材

中学生の発達の段階では、生徒自身が生きる社会や人間関係が、飛躍的に広く複雑になっていくことから心理面での成長の一方、情緒的に不安定になる場合もあります。また、人間関係の広がりや深さから、日常生活においては、「道徳的諸価値」がぶつかり合うことを多く経験していくこととなります。そのためにも本書は、答えが1つではない道徳的な課題を、一人ひとりの生徒が自分自身の問題と捉え、「考えることができる」「議論することができる」ように工夫をしています。

◆C-10〈書いてみよう!〉「わたしのいいところはどこ?」

中学1年生という発達の段階を考慮して、まず自分自身にしっかりと向き合うワークを用意しました。自分の個性・能力・適性等の自己理解から初めて、特に十分でないと考えられる点については、それを別の視点から見ることで、よさとして見直したり、努力目標を設定したりする作業に取り組む教材です。

②いじめを絶対に許さない態度を育てる教材

◆C-12「プロレスごっこ」

いじめの問題を正面から取り上げている教材です。中学校3年間、そしてそれからの人生において、いじめや不正に負けることなく、決して許さず、対応していく資質・能力を育てます。

③情報モラルについて話し合える教材

◆C-11「グループ」

昨今の生徒の人間関係は、家族や友だちといった実際に触れ合う人だけではなく、インターネットを通じて日本中、世界中に広がっています。そこには多くの楽しさと便利さがある一方で、その利用で悩んだり、負担に感じることも多くなっています。生徒にとって、これからの人生で決して欠くことのできないインターネット・コミュニケーションについて、自分ごととして話し合うことができる教材です。

(3) 道徳教育の系統性と体系化（カリキュラム・マネジメント）を支える教材

各学年の発達の段階を踏まえた系統性と、各教科、他領域の学習内容との関連を考慮し道徳教育の体系化を実現させます。

① 発達段階を踏まえ、学年間につながりのある教材

中学校の3年間は、心も体も大きく成長する時期です。その発達の段階を考慮しつつ、学年間の繋がりも重視した教材を採用しています。価値の多様性をしっかりと受け入れる寛容な心を育む項

目は、1年「二つの足跡」から、2年「あなたが見えているもの」、3年「あなたは どう思う」と、すべてワーク方式を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるようにしています。また次の「リョウとマキ」のように、ストーリーに連続性をもたせているものもあります。

◆B-8「リョウとマキ～First Love～」

このリョウとマキのストーリーは、2年の「Triangle Zone」、3年の「Stand by Me」と主人公の成長とともに続いていきます。リョウとマキと一緒に歳を重ね、直面する悩みや葛藤を、自分の友だちのように一緒に共有し道徳的問題として考えて欲しい教材です。

②他教科との繋がりを考慮した教材

◆A-3「パーソナリティ」

これは自己を見つめ、自己の個性、能力、適性等について主人公を通して考えさせたい教材です。この1年生の自己理解から、2年生の教材であるA-3「ワンステップ」では、自己啓発をテーマに、3年生のC-12「ライフロール」では、自己実現に向けて想定される葛藤を通し道徳的問題に向き合わせます。これらは、道徳的価値の理解を基盤に、キャリア教育の視点からキャリア発達の段階の連続性と系統性を意図した教材になっています。

◆C-12「もも子」、C-13「仕事と心」

中学生になると、地域の行事や社会福祉施設などでボランティア活動に参加したりすることを通して、よりよい社会を協力して築こうとする意欲が強まってきます。中学2年生には、社会科の公民的分野での社会参画や社会連帯の在り方や公共の精神の学習などが始まります。それに対応して、社会の一員であることの意味や働くことの意義を、道徳的観点からもしっかりと考えることは重要であり、そのための教材を充実させました。

◆D-19「過去からのメッセージ」「誰かのために」

「人間尊重の精神」やいじめを許さない心の根底には、「生命を尊ぶ」態度が不可欠です。理科や保健体育、技術・家庭などの他教科等での学習も踏まえつつ、本書では、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びをより深めることができる教材を用意しました。加えて1年生には、「いのちのつながり」というコラムも設け、これまでの連続性の観点から、生命の尊重について考えることができるようになっています。

2. 対照表			
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
A 自分自身と向き合う			
銀色のシャープペンシル	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	p.8-12	1
命をつくるもの	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	p.13-15	1
俺は最強だ！ パーソナリティ	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	p.16-25	2
志～幼少の記憶より～	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。	p.26-29	1
金星探査機「あかつき」の挑戦	(5) 真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。	p.30-35	1
B 主として人との関わりに関する事			
二枚のチケット 朝の地下鉄	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。	p.38-43	2
おはよう	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	p.44-46	1
いつもいっしょに ちゅうたがくれたもの リョウとマキ～First Love～	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	p.47-65	3
嘉納治五郎先生との出会い 二つの足跡	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。	p.66-71	2
C 集団や社会とのかかわり			
傘の下 僕じゃないのに 自分の心の中の自分	(10) 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。	p.74-85	2
仏の銀蔵 永久欠番42 グループ	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	p.86-103	2
プロレスごっこ 町内会デビュー もも子	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	p.104-119	3
仕事と心	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	p.120-124	1
形見 ペーパーバード	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	p.125-135	2
希望の風に	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	p.136-140	1
銅像が教えてくれたこと 雄司の自慢	(16) 郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	p.141-147	2
環境先進国江戸	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	p.148-152	1
大地一八田與一の夢一	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	p.153-160	1
D 自然や崇高なものとのかかわり			
過去からメッセージ 誰かのために	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	p.162-169	2
ニッポニア・ニッポン	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。	p.170-177	1
ほっちゃれ	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。	p.178-180	1
ネパールのビール レーナ・マリアの挑戦	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。	p.181-189	2
※基本的に1教材を1授業で配当しているが、内容項目で3教材あるところは、各学校の道徳指導方針に沿って、適宜選択すること。			計35